

もっと知りたい『改訂版 高校生の音楽1』 こんなときはどの教材？

Q1 合唱曲を探している

長く愛されている「春に」(p.80)と、新しく収載した「民衆の歌」(p.78)はぜひ歌ってほしい合唱曲です。他に、原曲の鑑賞と併せて取り上げたい「フィンランディア」(p.75)や、ア・カペラの「はるかな友に」(p.74)や「Mille regrets (ミル・ルグレ)」(p.76)などを用意しています。また、ぜひ「声の不思議を探る」(p.28)で生徒の声探しに取り組んでみてください。

声の不思議を探る (p.28・29)

Q2 「批評」がよくわからない

芸術科音楽における批評とは「音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表現し他者に伝えること」(指導要領解説より)であり、聴き取った(=知覚)ことと感じたこと(=感受)を関連付けて、根拠を示すことが重要です。「音楽を聴いて感じたことを自分の言葉で書いてみよう」(p.121)では、音楽を形づくっている要素や構造などに着目して、生徒自身の想いや価値判断を、適切な言葉で客観的に表現するよう促しています。鑑賞教材の「鑑賞のポイント」をもとに、批評を論じ合うアクティブラーニングへの発展も考えられます。

Q3 器楽で和楽器を扱いたい

箏(p.136)、三味線(p.138)、尺八(p.140)の奏法と鑑賞教材をセットにして見開きで掲載しました。演奏に慣れたら和楽器アンサンブルを。水戸黄門主題歌としておなじみ「あゝ人生に涙あり」(p.106)に挑戦してみてください。

Q4 創作活動を深めたい

作品を他者の視点から眺めることが学習を深めます。「メロディーをつくろう」(p.110)や「音素材を生かしてつくろう」(p.114)の作品も、交換し合って演奏すると新たな発見が得られます。様々な記譜の例として、武満徹とグラフィックデザイナー・杉浦康平による「弦楽器のためのコロナⅡ」(p.159)の美しい図形楽譜もご参照ください。

参考 創作領域について

【高等学校学習指導要領 内容の取扱いより】

内容のAの(3)(※創作)の指導に当たっては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成することを重視するとともに、作品を記録する方法を工夫させるものとする。

【高等学校学習指導要領解説より】

生徒が表現したい音楽のイメージをもち、主体的、積極的に音を音楽へと構成していくことが求められる。そのためには、即興的に音を出して、その音の質感を感じ取り、表現したい音楽のイメージを膨らませながら音の組合せを工夫しその積み重ねや発展の結果として、音楽が形づくられていく過程が極めて重要となる。

音楽とは「人間によって 組織づけられた音響」である

ジョン・ブラッキング(イギリスの民族音楽学者・社会人類学者。岩波書店『人間の音楽性』より)